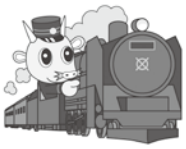
# 本棚ぶらり

テーマ
## 鉄道



### 『美しき鉄道橋の世界』

たけだ げんしゅう
**武田元秀／著**
**天夢人　2021 年**

さいたま市民にとって馴染みがある鉄道橋というと、川口～赤羽間の荒川に架けられた鉄道橋だろうか。しかし、今まで電車に乗りながら意識せずに通過してきた人がほとんどだろう。本書には、ただ通過するにはもったいない、むしろそこを目的地としたくなるような全国の美しい鉄道橋の写真が掲載されている。各写真は、熟練の鉄道カメラマンが自らの経験と美意識をもとに厳選した作品。鉄道橋を取り囲む海や川、山の四季折々の様相も相まって、その美しさには目を奪われる。全ての写真に付された解説文は、橋の特徴や施工技術、その場所の地理や歴史のことまで言及していて興味深い内容である。コロナ禍でなかなか遠出しづらい今、「いつかここへ行ってみたい」と美しい鉄道橋に思いを馳せてみては。

### 『鉄道好きのための法律入門』

こじま　よしき
**小島好己／著**
**天夢人　2022 年**

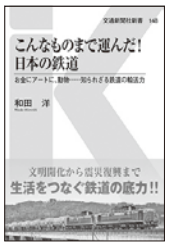
「きっぷをなくした場合、そのまま乗れる？」「指定席が空いていたら自由席券で指定席に座ってもいい？」本書では、このような鉄道に関する素朴な疑問に、現役弁護士の著者がわかりやすく答えてくれる。Q&A方式のため、自分の興味がある項目から読める手軽さもあるが、各問への法律に基づいた解説は根拠が明確で読み応えがある。鉄道利用におけるルールやマナーを再確認できる一方で、運行に関する豆知識を得ることもできる。書名に「鉄道好きのための」とあるが、鉄道を利用する人なら誰が読んでもためになる内容である。本書を読んだ後は、自分そして周りにとって、より気持ちよく鉄道を利用したいと思うだろう。著者が時折挟む思い出話や、鉄道好きならではの意見も味があって面白い。

### 『埼玉鉄道物語』

おいかわよしのぶ
**老川慶喜／著**
**日本経済評論社　2011 年**

鉄道博物館所蔵の国鉄C57形蒸気機関車が表紙を彩り、感動の「鉄道のまち大宮」誕生物語を期待して読み進めると、もはや埼玉県史なのかと錯覚するほど県内各地の鉄道史が次々と展開されていく。それもそのはず、著者は埼玉県史をはじめ浦和、大宮、川口など県内多数の市史編纂に携わった経験のある研究者なのだ。岩倉具視、榎本武揚、渋沢栄一など歴史に名を馳せた人物の支援もあり日本鉄道第一区線（現在のJR高崎線）、第二区線（現在のJR東北線）の分岐点となった大宮は、東京と東北方面をつなぐ重要商業拠点として発展。県内各地の鉄道敷設や駅建設は、今も昔も地域住民の賛同を得ながら何度も検討を重ねて実現に漕ぎつけるという汗と涙の物語がいくつもある。鉄道を軸に歴史と文化を読むことで、地元埼玉愛が深まる一冊。

### 『こんなものまで運んだ！日本の鉄道』




わだ ひろし
**和田洋／著**
**交通新聞社　2020 年**

鉄道と言えば車両デザインや路線図、駅名標に発車メロディなど、魅力あるテーマは様々だが、本書は鉄道が運んできたモノに着目した珍しい一冊。1872（明治５）年の創業以来、鉄道はヒトだけでなくヒトが持ち込む手荷物、暮らしを支える石炭や新鮮な魚、大量の紙幣や手術用に急がれる血液など、ありとあらゆるものを運んで経済インフラを力強く支えてきた。しかし、昭和後期には自動車による宅配サービスが台頭し、鉄道での荷物輸送は瞬く間に衰退する。その背景には、現在の物流システムとは大きく違う複雑怪奇な輸送の仕組みがあった。より円滑な輸送方法が模索され、陸上輸送が鉄道から自動車へと移り変わるにつれて、人々の文化も変わっていった様子は面白い。災害時に発揮される鉄道輸送の底力や、低環境負荷など、これからの鉄道の可能性にも興味が湧いてくる。

このページの一部書影画像はBOOKデータASPから引用しています